

資料

2023年度における生物（動物関係）に関する問い合わせ状況

中島 淳・石間妙子・更谷有哉・石橋融子

当所で窓口依頼検査以外で回答した動物に関連する問い合わせの内容について概要をまとめた。
2023年度は電話や持ち込み、電子メールによる質問が62件であった。問い合わせは県庁各課・保健福祉環境事務所・県警察等の県機関から45件、市町村から7件、一般県民から10件であった。前年度53件の問い合わせがあった特定外来生物ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼は7件、前年度33件であった鳥インフルエンザ関係の同定依頼は17件であった。また、ゴケグモ類疑い種の同定依頼は7件、外来アリ類疑い種の同定依頼は4件であった。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、アリ、ハチ、クモ]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込み等による生物に関する問い合わせに答えることが多い。本報では2023年度に寄せられた質問のうち、動物に関連するものについてその内容をまとめた。

2 方法

動物に関連する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者、一般県民、その他の5つに区分した。また、質問内容については一般的な不明種に関する同定依頼、ゴケグモ類疑い種（セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ）の同定依頼、マダニ類疑い種の同定依頼、ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼、外来アリ類疑い種（ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリ等）の同定依頼、鳥インフルエンザ関係同定依頼、生物多様性・外来種に関する一般的な質問、その他、の8項目に区分して整理した。

3 結果及び考察

表1に2023年度の月ごとの問い合わせ件数を示す。全体で62件の問い合わせがあり、最も問い合わせが多かったのは7月の11件で、次いで9月が8件、8月が7件であった。年間の問い合わせ件数は2010年度から2021年度が24～68件、平均50.1件で¹⁾、2022年度のみ117件と突出していたが²⁾、2023年度の問い合わせ件数は例年と同様であった。

図1に問い合わせの依頼元と件数を示す。問い合わせは県機関からのものが最も多く、県機関では保健福祉環境事務所からの問い合わせが多かったが、ほぼすべての場合において所管市町村または県民からの質問の仲介であった。市町村からの依頼も同様に一般市町村民からの質問の仲介であった。依頼元の傾向は過去と比較して、大きな違いはなかった。

表1 各月における内容別の問い合わせ件数

質問内容	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
不明種同定依頼		1	3	2	2	5		1		3			17
ゴケグモ類疑い		1	1	4		1							7
マダニ類疑い													0
ツマアカスズメバチ疑い			1		4	1	1						7
外来アリ類疑い		1		2				1					4
鳥インフルエンザ関係	1	1		1			1	1	5	3	1	3	17
生物多様性・外来種	2		1	2	1	1						1	8
その他	1	1											2
計	4	5	6	11	7	8	2	3	5	6	1	4	62

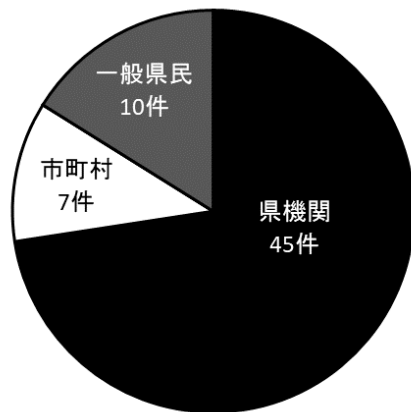


図 1 2023 年度における問い合わせ元の件数

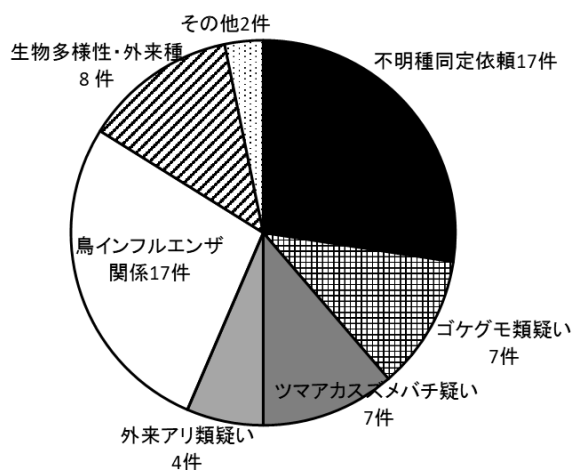


図 2 2023 年度における内容別の問い合わせ件数

問い合わせの具体的な内容は不明種に関する同定依頼と鳥インフルエンザ関係の同定依頼がいずれも 17 件で最も多く、次いで生物多様性・外来種に関する一般的な問い合わせ (8 件) が多かった (図 2)。生物多様性・外来種に関する問い合わせの内容としては、身近な生物と環境との関係性や、対処方法についての質問が多かった。

ゴケグモ類疑い種として問い合わせがあった 7 件のうち、セアカゴケグモであったのは 3 件で、その他はオオヒメグモ (2 件)、ハンゲツオスナキグモ (1 件)、不明 (1 件) であった。

ツマアカスズメバチ疑い種として問い合わせがあった 7 件はいずれもツマアカスズメバチではなく、オオスズメバチ (1 件)、コアシナガバチ (1 件)、セグロアシナガバチ (1 件)、オオフタオビドロバチ (1 件)、ツマアカクモバチ (1 件)、不明 (2 件) であった。

外来アリ類疑い種として問い合わせがあった 4 件はい

ずれも外来アリ類ではなく、ヒメアリ (1 件)、アミメアリ (1 件)、ヤガタアリグモ (1 件)、不明 (1 件) であった。

鳥インフルエンザ関係で問い合わせがあった 17 件のうち、種まで同定できたのはハイタカ (4 件)、ハシブトガラス (2 件)、フクロウ (2 件)、カルガモ (2 件)、ツミ (1 件)、ハマシギ (1 件)、ムクドリ (1 件)、キンクロハジロ (1 件)、ホシハジロ (1 件)、スズガモ (1 件)、マガモ (1 件) であった。

不明種同定依頼において種まで同定できたのは、カミツキガメ、アカミミガメ、シロマダラ、シマヘビ、ニホンアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ミナミメダカ、カダヤシ、アオマツムシ、コガタノゲンゴロウ、ゴマダラカミキリ、ベッコウクモバチ、アメリカザリガニであった。このうちカミツキガメは 2023 年 6 月 2 日に北九州市小倉南区で発見され、市役所により捕獲され当研究所に同定依頼があったものである (図 3)。甲長約 37cm、重量約 11.1kg の大型の個体であった。本種は外来生物法に基づく特定外来生物に指定されており、県内ではまだ定着が確認されていない。今後、定着しないようその動向に注意する必要がある。本個体は現在標本として当所で保管している。



図 3 小倉南区で捕獲されたカミツキガメ

本報をまとめるにあたり、クモ類の同定に際してご教示いただいた馬場友希博士 (国立研究開発法人農業環境技術研究所)、爬虫類の同定に際してご教示いただいた田原義太慶氏にこの場を借りてお礼申し上げる。

文献

- 1) 中島 淳, 石間妙子, 濱村研吾: 福岡県保健環境研究所年報, 49, 104-105, 2022.
- 2) 中島 淳, 石間妙子, 更谷有哉ら: 福岡県保健環境研究所年報, 50, 122-123, 2023